

令和８年６月定例会一般質問 要約版

質問者 小嶋 貴子 議員

【命の安全教育について】

質問Ⅰ

議員：今の子供たちは、生まれてすぐから親の持っているスマートフォンに触れる機会があり、子供の６割以上が日常的にインターネットを利用している現状がある。SNSの普及により、子供たちは意図せず、犯罪や性暴力などの被害に巻き込まれる危険性が高まっている。現状を踏まえ、子供が被害者にも加害者にも傍観者にもならないための教育が必要である。子供たちを守るための命の安全教育の、町内での実施状況、文部科学省教材の活用、教職員研修、家庭や地域との連携、今後の取り組みについて、どのように実施しているのか問う。

教育長：保健や特別活動等の授業において、生命の誕生や体の発育、性の尊重について指導している。SNSを介したトラブル防止や身を守るための安全行動、困ったときに周囲へ相談できる力の育成を図るために、実践的な教育を展開している。教材を活用し、互いのプライバシーを守る意識について、視覚的にわかりやすく、指導を行っている。教職員の研修体制では、養護教諭や保健主事が中心となり、専門的な知見を生かしながら、企画運営をしている。家庭や地域へは、家庭教育学級の研修会などで、性教育に関する内容を取り扱うなど、意識啓発を促している。関係機関や家庭地域との連携も密にしながら、社会全体で子供たちを見守る環境の充実も図っていければと考えている。

【町の検診について】

質問Ⅰ

議員：川南町では、胃がん検診はバリウム検査がなされている。健康上バリウムが飲めない方やバリウム検査が苦手なため受診をためらう方がたの声がある。胃カメラ（内視鏡）検査の導入や、費用助成など受診しやすい環境整備ができないか問う。

町民健康課長：X線検査、内視鏡検査、どちらにもメリットデメリットがある。

胃 X 線検査については、比較的短時間で済むこと、発泡剤を使うことにより、胃の全体像が掴みやすく、変形やスキルス胃癌を見つけやすいこと、検診後の拘束時間がないことなどのメリットがある。一方、内視鏡検査では異常を見つけた際にその時生検ができるなどのメリットがあるが、強い嘔吐反射や喉の痛みが伴うなど鎮静剤を使用することもあり、本町では X 線検査を採用している。

X 線検査が不向きの方への対策は現在ない。何らかの対策が必要と考える。

町長：厚生労働省が定める指針等によって、町が胃カメラ検診を導入するためには、検診体制の構築や人員設備の確保が必要である。本町においては、胃カメラ導入は困難と考えるが、何らかの対策が必要である。検診費用の一部助成など、他の方法を前向きに検討していく。

質問 2

議員：中高年の失明の主な原因は、緑内障や糖尿病性網膜症、加齢黄斑変性症であるが、初期にはほとんど自覚症状がなく、気づかない間に進行することが多い。希望者、高齢者を対象に視野検査を試行的に実施した方が良いと考えるが、町ではどのように考えるか、緑内障や難聴などの早期発見、早期治療についての考えを問う。

町民健康課長：ご自身の体に関心を持っていただくことが大事だ。町の広報誌や各種検診でセルフチェックの紹介を行う。アイフレイルのセルフチェックの手段であったり、「聞こえ 8030 運動」などによるセルフチェックの手段など、その素材を保健センターに置くなどして、啓発に努め、早期の気づきにつなげていく。

【町の文化財の PR について】

質問 1

議員：昨年定例議会において、松山の陣跡を町の史跡に指定するとともに、県や国に申請をして国指定にしてもらいたいのではないかという質問をした。これに対し、「文化財審議会に審議お願いしているところである、その結果を受けて町指定、県指定、国指定の対応について検討していきたい」という答弁だった。

議会において検討されたのか、その後の進捗状況を問う。

教育長：昨年の審議会で松山の陣の案内看板設置の了解をいただき、昨年 11 月に案内看板が設置された。今後の調停を視野に調査・研究を進めていく。

質問 2

議員：同じく、昨年、大河ドラマに連動して、ポスター掲示など PR してはどうかと質問した。町長からは「教育課と協議を進めていきたい」、教育長からは、「町外の人が集まるような場所にポスター掲示がアピールとしては効果があると考え、検討していきたい」との答弁だった。

掲示の準備は進んでいるのか、その後の進捗状況を問う。

教育長：現時点で苦慮している。木城町や川南町観光協会等の関係機関とも相談する。どのような内容のポスターが適切なのか、資料が適切なのか、今後検討していく。